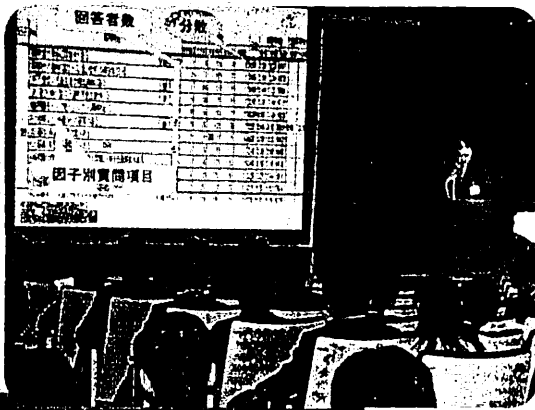


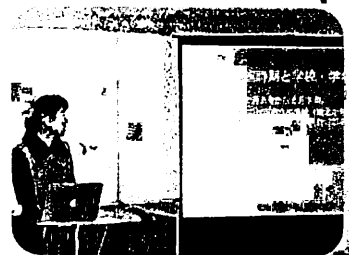
総合教育センターだより

平成17年3月15日発行 第92号

探



3 授業
解説と
31 発表

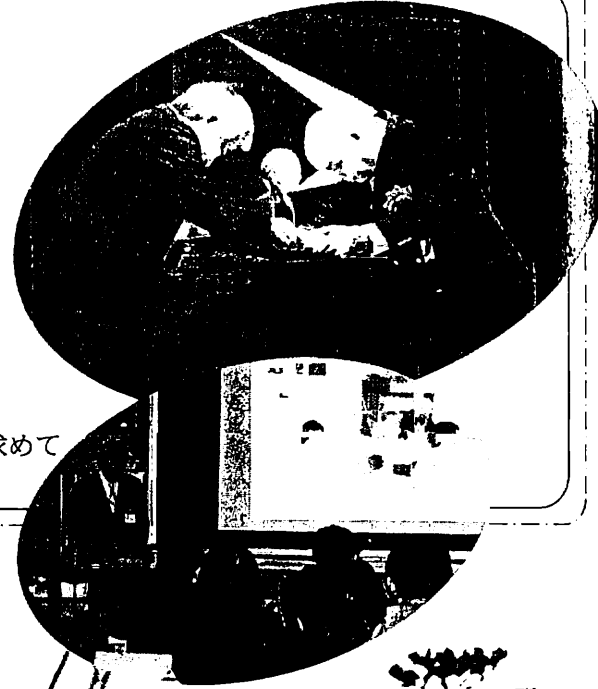


第19回秋田県教育研究発表会が
2月9日(水)・10日(木)の2日間、
当総合教育センターを会場に行われました。
教育改革が大きく進められる中で、
各学校の創意ある取り組みや
新生教育センターの研究に
注目が集まりました。

秋田県教育研究奨励賞

平成16年度秋田県教育研究奨励賞の受賞式が行われ、渡部聡県教育委員長より受賞者に賞状と盾が贈られました。受賞された皆様、おめでとうございます。

- 大雄村立阿気小学校 大雄村立阿気小学校 教諭 菅谷由美子
いのちの教育・からだの科学
－低学年からの性(生)教育の試み－
- 大館市立第一中学校 代表 教諭 小林一彦
「4つの基本方針」をもとにした生徒の考えを生かす
市町村合併の学習材化の実践
- 秋田市立金足東小学校 代表 校長 田口隆
地域や学校の特性を生かした環境学習の開発
－未来を切り拓く子どもを育てるために－
- 秋田県立能代養護学校 代表 寄宿舎指導員 加藤鈴子
今、寄宿舎における教育的機能と支援の在り方を考える
- 秋田県立聾学校 代表 校長 目黒知子
幼児児童生徒や保護者のニーズに応える聴覚障害教育の在り方を求めて
－サテライト教室の設置とその実践－

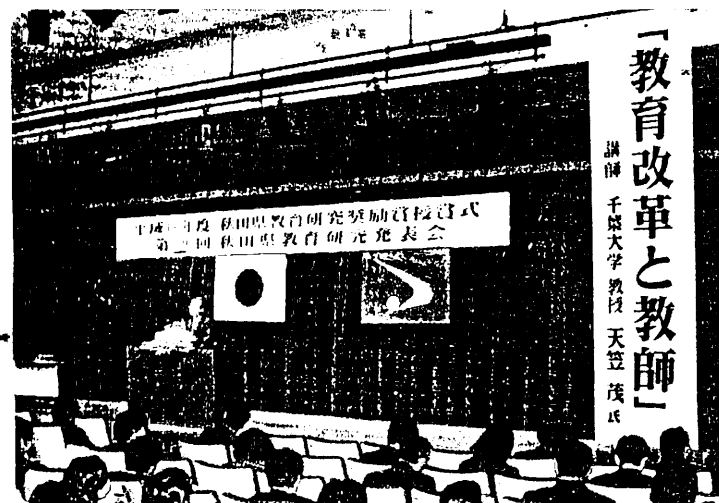


研究の成果を

現場に生かそう!

～記念講演～

「教育改革と教師」の演題で、千葉大学教授 天笠茂先生の記念講演が、2月10日(木)に当総合教育センターで行われました。先生は、千葉県教育委員としてもご活躍され、『新・学校評価の理論と実践』をはじめ多くの著書を出し、全国各地において、多数のご講演や研究発表に意欲的に取り組まれております。当日は約400名の参加を見、教育改革の渦中で混迷している学校教育において、教育改革の動向に関心を払い傍観者にならないこと、教育に理論をもち社会における自らの存在をアピールすること、21世紀に生きる子どもたちに何をすべきかを考えて地道に教育実践を積み重ねることなど、今後の取り組みの方向性に示唆を与えてくださいました。



「教育改革と教師」
講師 千葉大学教授 天笠茂氏

～第19回秋田県教育研究発表会～

プロジェクト研究・共同研究
センターのホームページで、
紀要やファイルを公開します。

前号でもお知らせしましたが、総合教育センターのホームページでは、センターで発行した紀要などの刊行物を、PDFファイルで提供しています。PDFファイルは、刊行された冊子と違い、必要な部分だけを印刷することもできますので、校内研修などにぜひご活用ください。

また、紀要の他にも、プロジェクト研究1からは、生徒指導のための『パワーアップシート』、プロジェクト研究2からは、『研修に関する自己評価シート』、共同研究1からは、『LD児等を対象とした国語指導のワークシート』と研究で開発した電子ファイルについても提供しています。ぜひ各学校でもダウンロードしてご利用ください。

ホームページ：<http://www.akita-c.ed.jp/center/>
トップページ左のメニューから → センターの研究
トップページ上のメニューから → 刊行物



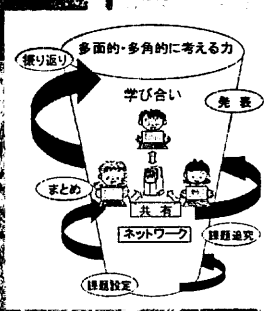
児童の集団活動の希薄化や直接体験の減少が指摘される中、特別活動においては、児童の社会性と自主的、実践的な態度の育成が一層重要視されています。学級活動において、児童が学級生活の充実や向上を目指して自治的に活動していくためには、話し合い活動の充実が必要であり、その準備を行う計画委員会の活動が重要となります。そこで、本研究では学級活動における計画委員会の意義を明らかにし、それを機能させることを軸としながら、話し合い活動を活発にしたり個々の思いを生かしたりする手立て等について検証しました。その結果、計画委員会や係、話し合い活動等への参加の意欲が高まり、自発的な活動や創意工夫も見られるようになりました。

「わかった」「できた」と子どもが実感できる学習を通して、
 基礎・基本の定着を図る家庭科のものづくりに関する指導方法の工夫

小学校家庭科では、家族の一員として生活を工夫していく力が求められています。そこで、本研究では2年間を見通した指導計画の中で、個に応じた指導・支援を工夫し創造することにより、一人一人が充実感や達成感を実感できる授業を構築してきました。その結果、縫い方の基礎・基本の定着を図りながら、家庭生活に主体的にかかわろうとする意欲を喚起することができました。また、子どもの主体的な学びを保障するための学習環境の一層の充実を目指し、小学生にも分かりやすいよう、動画に簡単な説明を付したコンテンツを試作しました。今後も小学生の目線に立った、魅力ある授業づくりのために研究を深めていきたいと考えています。

教科書に準じた自作コンテンツ

中学校社会科における、学び合いを支援し、多面的・多角的に考察する力を育成するための
 ICT活用の在り方



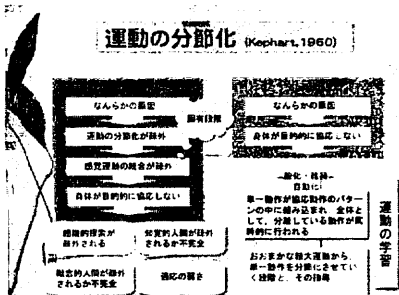
中学校社会科においては、学び方や調べ方の習得、多面的・多角的に考える力の育成の指導を一層充実する必要があると指摘されています。これは、私自身が課題と感じていたことそのものでした。この課題を解決して、学習を深めるためには、生徒相互の「学び合い」が大切な要素であると考えました。本研究では、学習の過程を重視し、課題設定の段階からネットワーク機能を利用して、生徒同士が見たり、聞いたり、教え合ったりできる電子ノート等を作成して学び合いを支援しました。その結果、生徒は主体的に学び合い、学びの情報を共有し、随時多様なものの見方や考え方に触れ、多面的・多角的に考察する力を高め合うことができました。

Q-Uにおける学級生活不満足群に属する子どもへのアプローチ
 -プロジェクト・アドベンチャー(PA)の手法を生かして-

近年、子どもたちが一緒に遊べる時間や遊ぶ友達を見付けることが難しくなっており、人間関係や信頼関係をはくむ時間が見出しにくい状況にあります。本研究では、友達のよさを伝え合ったりする活動などを通して、人と交わることの楽しさを感じられるPAに注目しました。Q-Uを行い、人とかかわることを苦手とする特徴をもつ児童に焦点を当て、授業実践をしました。その結果、PAの手法を生かした授業が、コミュニケーションスキルの向上と実生活における人間関係づくりの有効な手段の一つとなり得ることが分かりました。PAには、楽しみながら遊び感覚で学べるアクティビティがたくさんあります。トライしてみませんか。



身体意識や身体協応性に着目した運動教育の在り方
 -ムーブメント教育的方法の試み-



子どもの不器用さに対して、改善する(治療する)方向でかかわろうとするとき、その根拠となる根本の考え方を知りたいという欲求を強く持っていました。この一年間の研修に恵まれて知り得たことは、身体意識への指導という視点を持つこと、固有段階の問題としておそらくは疎外されているであろう運動の分節化と統合について、支援の場面で十二分に考慮すること、そして、何よりも、子どもの自尊感情(self-esteem)への想いに100%寄り添うべきだ、ということでした。MEPAで実態把握することで、子どもの「できない面」が、指導のポイントとしてのみではなく、その子どもの想いの凝縮した姿として実感されたことは、私にとって、何よりの収穫でした。

研
 修
 員
 の
 研
 究
 を
 紹
 介
 し
 ます

研修員この一年

「読書を通して得たこと」

研修員には、研修の充実を目指し、必読図書や推薦図書を20冊以上読み、報告書を提出する課題があります。初任のころは進んで読んでいた専門書も、最近は疎遠になっていたのですが、今回読書の機会を得ることができ有意義で充実した時間を過ごすことができました。研究に関する本から得たことに加え、これまでは必要な時に必要な箇所しか目を通せなかった「学校教育の指針」や「学習指導要領」を改めて読み直すことができ、自分の教育への姿勢を見直すことができました。今後の教師生活を続ける上で大きな財産となった気がします。読書は心に潤いを与えてくれます。これからも読書を通して、心を充実させる機会を増やしていきたいと思います。

研修員 大塚邦子

「大切なことは…」

この一年間研修員として、研究を中心にたくさんの講演を聴く機会や講座に参加する機会に恵まれました。その中で、今話題となっている「情報モラル」に関するものがありました。「情報モラル」の指導を行うには、往往にして専門の知識やコンピュータ等の卓越した技術が必要なのではないかと考えてしまいます。また、あれはだめ、これはしてはいけないという指導になりがちです。しかし、大切なことは「人とのコミュニケーション」や「相手に対する思いやりの心」を子どもに

考えさせること、子どもと一緒に考えることだと思いました。自分や周りの人たちを大切に育てていくかが、今求められているのだと感じます。

研修員 武内 真之

「出会いとふれあいに支えられて」

センターでは、今年度から各班の部屋が一つになりました。ワンフロアとなった大きな執務室で研修を続ける中で、年令も校種も異なる各班の指導主事や研修員の方々と出会い、多くの刺激を受け、視野を広めることができました。この一年間、センターでの貴重な研修の機会をいただき、今までの自分を振り返って研究を行えたことも成果の一つですが、このように多くの人と巡り会えたことも大きな財産となりました。

新しい出会いの中で、研究協力校の先生方や生徒たちには、あたたかく支えてもらった一年でした。教師は、人とかかわり続ける職業です。これからも人との出会いとふれあいを大切に頑張っていきたいと思っています。

研修員 物部 長秀

「模擬授業が出発点に」

「模擬授業」は実践的指導力の一層の向上を図ることがねらいで、所属校の児童生徒の実態を踏まえた指導案を作成して行います。私は中学校の特殊学級を想定しましたが、生徒の能力差に対する個別の配慮や生徒が行動しやすい具体的な指示などの課題が見えてきました。これらについて、指導主事の先生方のご助言や他の研修員の授業から多くの示唆を得ることができました。

また、生徒役は研修員が務めるのですが、障害がある生徒になりきることは想像以上に難しく、障害に伴う困難や生徒の気持ちを本当の意味で理解する出発点になりました。このように授業者、生徒双方の視点から授業を体験できたよさを、今後の授業実践につなげたいと思います。

研修員 袴田 佳子

「研究発表まで」

研究したいテーマを見つけ、研究を具体化し、まとめることは大変なことでした。研究が充実したものとなるよう、学校においては体験できないほど多くの講座に参加し、本を読み、そのことによって様々な発見をし、自分の考えを再確認できる理論や方法を学び、身に付けることができました。研究を進めていく中で、今後の仕事の拠り所となるものを得ることができたのが大きな成果です。

研究の完成まで、たくさんの人々に支えられてやり遂げることができた改めて感じています。丁寧に指導してくださった指導主事の先生方、貴重な時間を割いて協力してくださった所属校の先生方、そして熱心に取り組んでくれた生徒たちに感謝しています。

研修員 今 聡

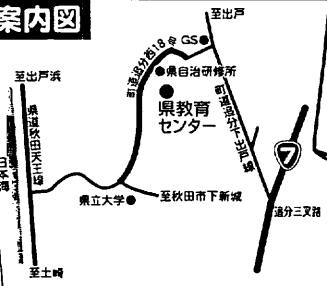
「平成17年度講座案内」を まもなくお届けします

センターでは、『平成17年度講座案内』の作成を進めております。各校には、今年度内にお届けする予定です。C講座も大きく変わります。研修の充実に向けて、どうぞご利用ください。

なお、ホームページにも掲載しますので、そちらでもご覧いただけます。

追分西
18号線!

案内図



3/18に開通します。
センターへの行き来が
より便利になります。

「センターの住所が変わります」

市町村合併に伴い、3月22日より総合教育センターの住所が次のように変わります。

〒010-0101 潟上市天王宇追分西29番地の76
TEL・FAX番号は、今までどおりです。

